

平成24年度第1回千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会
会議録

1 日時：平成24年7月6日（金）午後1時59分～午後3時50分

2 場所：会場 千葉市議会棟 第3委員会室

3 出席者：

（1）委員

大原明保委員（部会長）、河合謹爾委員（副部会長）、善積康夫委員、
古賀学委員、西田直海委員

（2）事務局

（経済農政局事務局）

渡部経済農政局長、皆川経済部長、今井経済企画課長

（集客観光課）

河瀬課長

4 議題：

（1）千葉ポートタワーにおける指定管理者年度評価に関する事項について

（2）千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場における指定管理者年度評価
に関する事項について

5 議事の概要：

（1）千葉ポートタワーにおける平成23年度の年度評価についての審議を行った。

（2）千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場における平成23年度の年度
評価について審議を行った。

6 会議経過：

【事務局】 お待たせいたしました。本日はお忙しい中、ご出席いただきましてまこと
にありがとうございました。

定刻となりましたので、ただいまより平成24年度第1回千葉市経済農政局指定管理者
選定評価委員会観光部会を開催いたします。

私は、本日司会を務めさせていただきます経済企画課課長の今井と申します。どうぞ
よろしくお願いいたします。

本日の会議ですが、市の情報公開条例第25条によりまして公開されております。現在
までに1名の方から傍聴の申し込みがございました。

続きまして、会議の成立についてでございますが、委員総数5名全員の皆様にご出席
いただいておりますので、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第10
条第2項により成立しておりますことをご報告いたします。

それでは初めに、経済農政局長の渡部より一言ごあいさつ申し上げます。

【経済農政局長】 渡部でございます。本日は、観光部会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の部会では、一昨年の平成 22 年に千葉ポートタワーと千葉市ユース・ホテル及び昭和の森キャンプ場、この 2 つの施設の指定管理予定候補者の選定をいただいたところでございます。本日はその初年度、平成 23 年度の年度評価についてご報告を申し上げるとともに、委員の皆様方からそれぞれご専門の立場からの忌憚のない意見をちょうだいいたしまして、それを今後の施設の管理運営に反映させていきたいというものでございます。

どうぞ何とぞご審議のほう、よろしくお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

【事務局】 ありがとうございます。

そのほかの出席者につきましては、お配りしてある資料に席次表がございます。こちらで紹介にかえさせていただきたいと思います。

それでは、本日の流れにつきまして事務局より説明いたします。

【事務局】 本日これから審議いただきます観光部会におきましては、今局長からも話がありましたが、平成 23 年度から両施設とも新しい指定管理者の管理となりましたため、今年度が初めての指定管理選定評価委員会での評価となります。

簡単に評価についてご説明しますと、まず、年度評価につきましては、年度の終了後に市で履行状況の確認を行った後、より適正な管理運営を行うために選定評価委員会へ報告を行い、委員の皆様の意見を伺うものです。方法としましては、まず所管課で指定管理者による自己評価、実績報告書、モニタリング等の結果をもとに、指定管理者評価シートを作成します。その評価シート及び事業報告書、法人の財務諸表等をもとに、より良い管理運営のための意見を選定委員会からいただくものです。

また、総合評価としましては、今年度は該当はありませんが、指定管理の最終年度におきまして、過年度の評価結果等を踏まえまして、現指定管理者の管理業務を総括するとともに、次期指定管理者の選定に向けて管理運営基準等について意見を伺うものです。

ですので、現指定管理者の評価であると同時に、次期指定管理者の選定のための評価という 2 つの意味を持つものになります。

本日は、まず千葉ポートタワーの管理運営状況について説明させていただき、それに対するご意見を伺います。その後、一たん休憩とさせていただき、その間に委員の皆様の意見をまとめたいと思います。まとめたものを確認していただき、選定委員会の答申とさせていただきたいと思います。

次に、千葉市ユース・ホテル及び昭和の森キャンプ場について同様に説明させていただき、ご意見を伺いたいと思います。

以上です。よろしくお願いいたします。

【事務局】 それでは、ここからは部会長の大原先生に進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【部会長】 ただいまの事務局から説明のありましたとおり、本日は 2 施設について

の年度評価についての当委員会の意見を述べるということになりますが、まず、千葉ポートタワーの年度評価について説明をお願いいたします。

【事務局】 集客観光課長の河瀬と申します。よろしくお願いいたします。

ここからは座って説明させていただきます。

本日、机の上に置かれております資料につきましては、2セットありまして、そのうちの千葉ポートタワーのほうをごらんください。指定管理者評価シート、及び、その次にあります指定管理者事業対照一覧表につきましては、先日送付しましたものから若干訂正が加わっておりますので、机のものをごらんください。

それでは、説明させていただきます。

初めに、指定管理者評価シートをご用意ください。評価シートは千葉ポートタワー管理に関する基本協定、事業計画、事業報告、収支報告書等をもとに作成いたしました。

初めに、1の基本情報についてです。施設管理者は株式会社三越環境ビル管理、指定期間は平成23年4月1日から平成28年3月31日までとなっております。

2の管理運営の実績についてです。

(1) 主な実施事業は、管理運営、維持管理の指定管理事業と、3階のラウンジ運営業務、1階売店での物品販売業務の自主事業となっております。

(2) 利用状況は、有料利用者が平成23年度7万3,423人で、前年度比76.5%、目標達成率73.2%となっております。これは、東日本大震災の影響により、6月3日までの約2カ月間エレベーターが使用できなくなったことにより、上層階が閉館したこと、さらに、津波が及ぼす海際への警戒、観光自粛ムードが大きな痛手となったものと考えられます。

(3) 収支状況、収入は利用料金収入が上記利用率に基づき約2,600万円で計画比72.4%になったのに対し、自主事業収入は約7,300万円で計画比99.2%とほぼ計画どおりとなっております。支出は人件費の見直しなどで計画の内訳との違いはあるものの、全体では1億7,800万円で計画比99.3%となっております。

収入支出の差、約800万円の赤字となっておりますが、これは新たな試みとして、「恋人の聖地」認定に向け、展望フロアのリニューアル、天空縁結びスポットやモニュメント等の設置に費用がかかったためでございます。

次ページをごらんください。

(4)、(5)、(6)、指定業務につきましては、指定管理者が行った処分件数、市への不服申立て、及び、情報公開の状況については、実績としてございません。

3の利用者ニーズ・満足度の把握について、(1)①アンケートの調査結果については、2,891人の回答が得られました。アンケートの質問項目については、記載のとおりでございます。②結果として、(7)満足度では、大いに満足、満足が70%、(8)従業員の対応と(9)施設の清掃状況では、とてもよい、よいが80%以上となっております。③アンケートによる意見、苦情への対応につきましては、記載のとおり、ご指摘いただいた事項に対し、可能な限り迅速に対応しております。(2)市に寄せられた意見、苦情等でございますが、こちらも特にございません。

次ページをお願いいたします。

4の指定管理者による自己評価でございますが、施設運営に関して、震災の影響もあったが、「恋人の聖地」への認定による施設の一部リニューアルも行った。施設維持管理に関しては、設備の日常点検、定期点検を通じ、施設の機能と環境の維持を図ることができた。施設管理に関して、震災の影響は痛手であったが、イベントの開催等による積極的な集客策を実施した。自主事業に関して、新キャラクター「ぼ〜とくん」を積極的に登用し、オリジナル商品の開発や販売を実施したという評価をしております。

続きまして、5の市による評価についてです。こちらは、インデックスのポの2、指定管理者事業対照一覧表でご説明をさせていただきます。A3のものになります。

(1) 市民の平等な利用の確保、施設の適正な管理について、①個人情報保護規程の策定では、管理運営の基準及び事業計画書等に従い、みずから個人情報保護規程を策定し、ホームページにて公開しております。また、新規雇用者を含めた従業員に個人情報の取り扱いに関する誓約書を提出させるなど、適正に対応しており、ともに2と評価しました。情報公開規程の策定についても、適正に対応されているため、こちらも2と評価いたしました。

②行政手続きについては、①同様、業務マニュアル、その公開状況について特に問題も見られず、2と評価いたしました。

③モニタリングについては、入館者へのアンケートの実施、ホームページ上での要望、意見聴取も常時行っており、計画どおり適正に行われているものと判断し、こちらも2と評価いたしました。

次ページをお願いいたします。

(2) 施設の効用の発揮、施設管理能力についてです。

①利用料金の設定や、②高齢者や小・中学生が土曜日無料となるふれあいパスポートの対応に対して、入館料の減免等は計画どおり実施されており、特に問題もないことから、2と評価いたしました。

また、②の開館時間及び休館日については、来館者数の増加や利便を図るため、12月のクリスマスイルミネーションや、1月のお正月イベント等で臨時開館や開館時間の延長を計画事業どおり実施しておりますので、2と評価いたしました。

③の自主事業の効果的な実施については、東日本大震災の影響があり、入場者数が大きく減少しているにもかかわらず、1階の物販事業は前年度比で112.1%、目標比で105.7%と良好であったため、3と評価いたしました。これは商品の定期的な入れかえやレイアウトの変更などが高評価を得ている要因と考えられます。

3階のラウンジ事業は、前年度比97.1%と、こちらも東日本大震災の影響を考慮すると努力が見られるものの、実績として前年並みということで2と評価をさせていただきました。

④施設の保守管理は、日常点検及び定期点検ともに事業計画どおり行われており、特に問題がないため、2と評価をいたしました。

次のページをお開きください。

(3) の管理経費の縮減についてでございます。①支出の見積もりの妥当性について、本年度は東日本大震災の影響により、約2カ月にわたる有料施設の休館の影響と、その

休館を利用して、新たな施設コンセプトとしての「恋人の聖地」へのリニューアルなどのハード整備への初期投資を実施したことや、一部人件費の変更があったものの、おおむね見積もりどおりであったため、2と評価をさせていただきました。

②収入の見積りの妥当性、こちらも先ほど来申し上げており、東日本大震災の2カ月に及ぶ休館の影響で、計画比27.6%の減となりましたが、その他の月ではおおむね計画どおり行われていることから、2と評価をさせていただきました。自主事業につきましてはおおむね計画どおりということで、2と評価をさせていただきました。

③収支状況について、支出見積りでも説明したように、先行投資的な設備の整備を行ったこともあり、単年度で900万円の赤字となりましたが、今後に期待できると判断し、支出状況の総合評価を2とさせていただきました。

評価シートのほうにお戻りください。評価シートの3ページになります。

以上の履行状況の確認等から、東日本大震災の影響があったものの、おおむね良好に管理運営が行われていると判断し、評価をAとさせていただいております。

以上でございます。

【部会長】 担当部署から、市側からの評価についての説明をいただきました。この説明について何か質問、ご意見がございましたらお願いいたします。

じゃあ、ちょっと私のほうからお尋ねしますが、管理経費というところに絞ってですが、最終的に収支状況については評価2に行っているんですけども、ただ、前提として評価2では、これあれですね、全体計画の中ではある程度収入も減ったんだけれども、自主事業費のカバーで何とか補う、赤字を出すことなくという、大きく言えば大体そんな意味合いですね。

【事務局】 はい。

【委員】 これどうでしたっけ、自主事業部門の収支と本来の補助金の対象であるところの自主事業じゃない固定事業といいますか、委託事業の会計というのは、今回は確かに東日本大震災というイレギュラーがあったと思うんですけども、統合して評価してこれ問題ないんですか。それとも、窮余の策的な形での統合ということになりますか。

【事務局】 収支状況のところという。

【委員】 はい。

【事務局】 そうですね、そこは正確な、明確な基準というのはちょっとわかりかねるところなんでございますが、自主事業じゃなくて受託事業分、指定管理者事業分につきましては収入も減っておるんですが、人の見直し等により支出のほうも削減を図っております。「恋人の聖地」での整備事業によって赤字になってしまったということがあるんで、その部分は自主事業に当たるのか、あるいは、受託事業の分なのかというのはちょっと微妙な線引きのところになっておりますので、総合的評価とすると先行投資で、しかも、「恋人の聖地」の整備については休館をしないとできないような整備をやったものですから、たまたま震災を利用してやったところをとらえまして、今のところ計画と大きな差はないだろうと、今後収入が増えるということを期待を込めて2という評価をさせていただいております。

【委員】 わかる範囲でもう1つその関連で教えてもらいたいですけれども、この人件費の削減、今触れられましたけれども、言葉として表現されているのは一部の社員の経費が9月以降外部委託となり、自主事業経費に移管されることも含め、つまり、そのような操作により人件費の大幅減少という結果がもたらされたというような言い回しですね。これ平たく言うと、委託事業もやる人が自主事業の中の人件費というふうにつけかえるというか、そういう操作というふうに、操作という表現が語弊があるようであれば、システムとしてはそういうことなんですかね。

【事務局】 具体的に言いますと、職員4人分が、これは三越環境ビル管理ということで、その異動によりまして、外部派遣会社への委託という項目になりましたので、その分の人件費を委託費のほうに見直しをしたことによって、内部職員と外部職員の差額ですとか、そういった意味で節減を図ったという形になっております。

【委員】 今の説明であると、外部委託になったので減少になったんだということでしょうけれども、自主事業経費に移管されたということですよ。つまり委託費、外部委託の人件費を自主事業費につけかえているということで乗り切ったという意味合いですか。そういうふうに理解してよろしいのかどうかということなんですか。

【事務局】 すみません、その辺は明確にヒアリング等できてはいないんですけれども、基本的にポートタワーの場合には上に集客というか、有料施設がありまして、1階に売店とか事業がありまして、それぞれの人というのが明確にこの人は自主事業ですよ、この人は受託事業ですよという区分がはっきりと分かれていないところがございます、そういう中で、いろいろやりくりをしている中で、どちらに計上したらいいかという判断の中でそうしたんではないかなと。受託事業のほうで赤字を出さないためという操作ではないという認識でおります。

【委員】 ニュアンス的には大体わかりました。

【事務局】 すみません。

【委員】 それと、ちょっと毛色の違った質問というか、レベルの低い質問ですけども、「恋人の聖地」というのはこの選定の際の見学でよくレクチャーを受けたんですけれども、もう1つキャラクターの「ぽ〜とくん」、ゆるキャラだと思うんですが、私も知らないし、あまり周知されていないんじゃないかと思うんですけれども、「ぽ〜とくん」はどんなものなのかという、もしわかれば教えてください。

【事務局】 今ポートタワーのパンフレットをお配りさせていただきます。

【委員】 写真で見ましたが、これはやはり着ぐるみというか、ぬいぐるみなんですか。

【事務局】 着ぐるみも、当初はちょっと形から着ぐるみをつくっていなかったんですけれども、今着ぐるみをつくってPRとかに努めております。

【部会長】 ほかにご意見ございますでしょうか。

【委員】 よろしいですか。

【部会長】 どうぞ。

【委員】 数字についてですが、指定管理者評価シートの2ページにアンケートの

回答者数がありますよね。2,891 人となっています。他方、3 ページのモニタリングの考え方の備考のところは2,981 人になっていますが、どちらが正しいのでしょうか。

【事務局】 2,891 人が正しいです。

【委員】 わかりました。

それから、もう1つよろしいですか。

【部会長】 どうぞ。

【委員】 アンケートにより得られた主な意見、苦情とそれへの対応というところが評価シートの2 ページの下のほうにありますけれども、事業報告書のところを見ると、これに対応する部分がちょっと見つけ出せません。18 ページのところにモニタリングの状況のウとして利用者からの問い合わせやクレームなどの対応については担当職員が内容等を確認して対応したという1 行があるだけで、具体的にどのようなクレームだとか、どのような要望があって、それに対してどのような対応をとったのかということが事業報告書のところからはちょっと読み取れません。最後にアンケートによる集計結果というのもございますけれども、そこでも特に触れられていないようです。事業報告書のほうにもクレームとか要望の内容、そして対応が具体的にまとめられているとよかったのかなと思います。

【事務局】 わかりました。すみません。ご指摘ありがとうございます。このアンケートの情報については、モニタリングとかで職員とかから確認したことの内容になっていますので、そういうものを報告書に記載できるように、来年度以降は指導していきたいと思います。

【部会長】 ほかにご意見、お願いします。

【委員】 前は、平成23 年度は震災というのがあって、多くのいろいろなほかにも目標値達成というところで評価しているのがあるんですけども、今回6 月までに動いていないという状態の部分も含めて全部計算されているんですけども、その部分を除いて、前年と同じ期間をやはり比較するという部分も、2 段構えであったほうがわかりやすいんじゃないかなという気がします。もちろんその期間だけでなく、1 年間、23 年度ずっと影響を受けている部分も多分あると思うんですけども、ただ、少なくとも6 月まで動いていないという、その自体なんで、そこは外して対前年度比較とか、そういうのを、2 段構えでやっておいたほうが、ほんとうに増えているのか減っているのかというのはわかりやすいんじゃないかなと思いました。ほかの、国なんかもそんなふうに行っている部分もあると思いますので。

それから、ちょっとどこまで今お聞きしていいかわからないんですけども、ご参考にお聞きしたいのは、雇用の問題なんですけれども、指定管理が変わったときにいろいろ案で、前の雇用者をできるだけ雇用するというようなのもあったような気がするんですけども、その辺はどうだったんでしょう、結果的に雇用が引き続き行われたのか、あるいは、もうやはり全部変わっちゃったのか、その辺は何か。

【事務局】 何人雇用するとかというのはちょっと把握はしていないんですけども、何人かは継続で残っている人もおります。

【委員】 要するに、給料が随分低くなったりとか何かしていたんで、継続というの

はなかなか難しいかなとあのとき思っていたんですけども、もう無理だなと思っていたんですけども、その辺。

【事務局】 継続で残った方も。

【委 員】 いらっしゃいますか。

【集客観光課長】 はい、現実にはいらっしゃいます。

【委 員】 以上です。

【委 員】 私もよろしいですか。

【部会長】 はい。

【委 員】 2とか3とかという形で、最後評価Aと書いてありますが、これはこの事業報告書とか、書類を見ての評価ですか、それだけの評価ですか。

【事務局】 モニタリング等も実施しております。あと、日々の業務なんかも見きわめながらの結果ということに。

【委 員】 どれぐらいの頻度で市の方は現場に行ったり、意見交換したりしているんですか。

【事務局】 昨年度は特に東日本大震災でのエレベーターの修理とか、いろいろ問題がありましたので、4月、5月、6月あたりはかなりの頻度で行っております。タワー自体には、そんなに距離もないですので、かなりの頻度では行っていると思っております。

【委 員】 そうすると、例えば、アンケートに出てきたレストランに関する不満というところで、メニューの内容や料金等に関する意見を参考に今後見直しを実施したいというふうに書いてありますけれども、そういうところでは、例えば、食べて、いろいろと意見交換をしたりとか、そういうようなことというのはあったんですか。

【事務局】 はい。実際にクリスマス料理だとか、そういったもので一部対応したこともございます。あとは、意見交換とすると、タワーの上のほうにラウンジがある関係で、厨房設備がそれほど充足されていないんで、なかなか料理をつくること自体がリニューアルというのも少し難しいかなというような情報交換はしておりますが、じゃあ、それを具体的に千葉市として直せるか直せないかということに関しては、費用もかかりますし、県の施設であるとかと、いろいろ問題がありまして、その検討段階までは入ってはございませんが、そういう意味で意見聴取等はしておるつもりでございます。

【委 員】 もっと突っ込んでお聞きすると、今回のこれを見て、もっとどうしていかうかというようなことを指定管理者の方たちと話し合ったりしていますか。

【事務局】 十分かどうかはわかりませんが、指定管理者もちよこちよこ顔を出して、うちの事務所のほうで相談、「ぽ〜とくん」なんかの活用や、あとは、全国のタワーの協議会とかが千葉でやるとかという情報もありますので、そういう中でのPRとか、そこら辺も相談しながらやっていこうと考えております。

【委 員】 多分私が考えるところでは、ポートタワー自体の中だけの努力だけでは集客とかということに対しては限界があるだろうと思います。例えば、この事業報告のところにはシャトルバスとか書いてありましたけれども、定期的にもっとバスがそこに来るようになったのかとか、そういうところはいかがですか。

【事務局】 ご存じのとおり、バス路線については1日1本とか2本とか、ほとんど来ていない状態で、タワーの利用者はほとんど車の利用者が中心になっております。中央港のあたりに今棧橋等の整備を千葉市でも考えておりまして、それらの整備と合わせてポートパークですとか、県立美術館ですとか、そういったところの連携を図りながら、あのまち全体の活性化をしていかなきゃいけないということは重々認識しております。それに向けて少しずついろいろな団体と調整を図っていききたいなと。現実はまだちょっとその棧橋の整備とか、そういうところの問題もあるので、今日言って来年からすぐというわけにはいかないかとは思っていますが、少しずつでも前進できるように鋭意努力していきたいと考えております。

【委員】 多分そういう状況というのはずっと今までも続いていたと思うんですね。それで、やはり何かちょっとでも、バスの便が増えたとか、車で来ている人たちが多いと。それで、その人たちが全部ポートタワーに来るかという、なかなかそうはいかないと。そういうところをどうしていこうとか。それから、ここに書いてあったのは、例えば、海だとか、それから、公園の利用者も多い。そのために来る人たちも多いと書いてあるけれども、ほんとうに公園が来て楽しいところなのかとか、海がそれほど、きれいなところでもないというところで、やはり、総合的に一緒に考えていく必要がありますよね。指定管理者の努力だけじゃなかなかいかないと。

中での努力というのはもっとどうしたらいいかということで、眺めはいいと。420円入場料を払って、でも、あそこのレストランで食べたいとか、何かそういう、強い、人が来るときの動機づけがなければリピーターも来ないだろうと思います。

そういうところでは、もっと何か、一緒にやれることというのがあるんじゃないかと思うんですね。指定管理者にしたから君たちが努力しなさいよと。私たちはそれを評価しますよでは済まないんじゃないかと思うんですね。民間のアイデアをいろいろと入れて、そういうサービスだとか、効率的なニーズに対応したノウハウをもらうというところでは、市もいっぱいもらわなきゃいけないし、やり取りしながら向上していくべきだと思います。このところでまあまあそこそこいいじゃないと済ませていては、よくないと思うんです。

【事務局】 ご意見ありがとうございます。

【事務局】 先ほど課長のほうが申しましたように、やはり棧橋が少しおくられているということと、それから、やはりポートタワーは県の施設を市が管理、指定管理をやっているということと、それから、ポートパークはポートパークでまた別な管理者になっているんですね。そこへ持ってきて、今度来年の1月からまた県立美術館のほうがいざらく閉館になるような状況もあって、しばらくちょっとポートタワー単体で頑張ってもらわなきゃいけないんですけれども、今西田臨時委員がおっしゃられたように、やはりリピーターを獲得するために、あの施設はあれ以上ハード整備ができないような状況です。その中で何ができるかという部分を我々と指定管理者のほうで、それから、場合によってはそういった交通事業者なども巻き込みながら、これは考えていききたいと思います。ただ、残念ながらちょっと周辺の整備が今そういうような状況なので、少し知恵を出しながらやっていききたいなというふうに考えています。

【委員】 その懸案はずっとあるので、そこは何かもうしていきますじゃなくて、こうしましたというのがないとなかなか次に行かないなと思うので、ぜひ皆さんも汗をかいていただきたいなと思います。

【委員】 次、よろしいですか。

【部会長】 はい。

【委員】 入場者数が、利用者数が60%ぐらいですよ。それで、自主事業の売上等は99%あるということは、そういう意味で、何というんですかね、かなりの努力をされて自主事業を拡大させているというふうに見えるんですけども、経費等については、このグループの、最初から選んだときに、この指定管理者をですね、グループの力でいろいろやられるというお話等に、ここの経費等の人件費も含めてやられたのはかなりグループの力で経費を削減したというふうな跡が見られて、今後、あれですよ、見解として、利用者が増えたときに、それに応じた物販、それから、一般的な料金収入ができる、出るものと期待していらっしゃると思うんですけども、その辺はどうご判断されているか、その辺の見込み、私が申し上げたことで間違っていることはありますか。

【事務局】 いや、まさしくそのとおりでございまして、基本的に物販に関しては、品ぞろえですとか、レイアウトを含めて、今回の指定管理で変わったことの効果が一番出たところなのかなということを痛感しております。

ご存じのとおり、4月から6月まで、有料部分については休館をしておったんですけども、1階部分についてはいろいろなイベントをやりながら集客に努めて、その結果としてもこういうことがあらわれているんで、今後により多くというか、期待をしながら、1つの千葉港の観光スポットの中心として考えておりますので、委員がおっしゃるのとおりでございまして。

【委員】 利用者数（有料）というところと、利用者数（無料）というところで比率が違いますよね。有料というのは上に展望のほうにエレベーターを使って上がられた方が基本ですよ。無料というのは、60%というのは、上には上らないで下だけと。上に上られる方はカウント、もちろん料金をいただいているんですからできているわけだと思ってしまうんですけども、下の利用者数（無料）の方はどうやってカウントされているんですか、ここは。

【事務局】 こちらは基本的にはカウントは同じで、エレベーターで上に行った方なんですけれども、無料というのは高齢者ですとか、お子様ですとか、ふれあいパスポートの方とか、いわゆる入場料を払わない方という。

【委員】 これは全部上に行かれた方と。

【事務局】 はい。公園の中に来られた方というのはちょっと人数カウントができない。

【委員】 そうのことですね。そうですか。わかりました。

【委員】 感想的なものですけども、よくこの震災の中で一番影響を受けると思われるこういう観光事業的なものを何とか支えられたというか、立派だと思います。しかも、なおかつ、先行投資的なものということでの「恋人の聖地」の整備とか、新キャラクターの導入とか、これが次年度から数字で実ることを期待して、これはよろしいんでしょうね。

【事務局】 はい。

【部会長】 もしほかに意見がなければ、今出た意見を何とかうまく取りまとめて、委員会の意見ということでご用意いただけませんか。

【委 員】 あと、私は知りたいんですけども、いいですか。

【部会長】 どうぞ。

【委 員】 アンケートのところで、来場者数で、10 回以上というのが 17% となっているんですけども、これはどういう魅力があって 10 回だったのかというようなことが何かわかってくるといいのかなと思います。その魅力というのを詳しく調べることで、何かヒントになるんじゃないかというふうに思います。この三越さんのほうのアンケートの分析はただ何%だったと書いてあるだけで、何の分析もされていません。いろいろとこの数字から検討の余地はあると思いますので、そこら辺ぜひ意見交換をしてください。

【事務局】 はい。

【委 員】 すみません、ちょっとよろしいですか。

【部会長】 どうぞ。

【委 員】 アンケート、これは多分満足度を出すためにはこれしかないんで、結構大事なものだと思うんですよね。今これを見たら、留め置きで置いてあって、それを勝手に書いてもらうという形をとって、ちょっと後のユース・ホステルのほうは対面でやったりしている部分もあるんですけども、そういった意味では、これを信じないというわけではないんですけども、書きたい人が書いているというところがありますので、統計的にはあまり信憑性がないんですよね。やはりきちんと統計的に何人に 1 人とかとってやる必要が実はあるんじゃないかなと思ってまして、できれば、例えば、1、2 回は市のほうから直接アンケートをやるとか、専門機関にちょっと頼むとか、そういうようなところも、一応これを比較するという意味でも、やってみたほうがいいんじゃないかなと思うんですね。お金を出しているわけですから、やはり満足度がちゃんといつているとかか、あるいは、今何回というのがありましたけれども、再来希望、また来たいかという、その辺も聞いてみたりとか、ちょっと詳しいアンケート調査も年に何回かはやってみたほうがいいような気がします。お金のかかる話ですけども。

それと、アンケートのやり方が、こっちと比較していいのかわかりませんが、違うんで、同じやり方をやはりとるべきじゃないかなと思いますね。こっちの満足度が高くてこっちが低いというのはやり方で違ってくる可能性もありますので、それもちよっと気になっていました。そんなところですね。

【部会長】 ということで、委員の意見、それぞれ述べられましたところを取りまとめていただく間、とりあえず休憩ということにしたいと思います。

(休 憩)

【部会長】 じゃあ、再開いたします。事務局、報告をお願いします。

【事務局】 こちらのほうでまとめさせていただきました案を読み上げさせていただきます。

震災の影響があった状況においては、おおむね良好な管理が行われていた。なお、モニタリングの制度を高めるために、アンケートの実施方法、分析方法等について工夫を

されたい。

そういった形でまとめてみました。

【部会長】 今の当委員会の意見のまとめ方ということですが、どうでしょうか。何かご意見ございますでしょうか。

それでは、今の取りまとめの内容で当委員会の意見とするということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【部会長】 じゃあ、そのとおりお願いいたします。

では、次に、もう1つの施設であります千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場について、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、引き続きご説明をさせていただきます。

ユース・ホステルのほうの資料をお願いいたします。

千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場指定管理者の年度評価について御説明をさせていただきます。

【部会長】 その説明に入る前に事前に配付いただいた資料と今日いただいた資料、千葉ポートタワーと同じように変わっていますか。

【事務局】 すみません。変更点が何点かございますので、事前の資料ではなく、今日配付の資料をお願いいたします。申しわけありません。

では、千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場の指定管理者評価シート、ユの1をごらんください。

シートの作成等につきましては、千葉ポートタワーと同様でございます。

1の基本情報として、施設名は千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場、指定管理者は株式会社塚原緑地研究所、指定管理期間は平成23年4月1日から26年3月31日までとなっております。

次に、2の管理運営の実績についてですが、(1)主な実施事業は管理運営、維持管理の指定管理事業と、食堂運営や物品販売などの自主事業でございます。

(2)利用状況でございますが、ユース・ホステルにつきましては、平成23年度は4,050人、昭和の森キャンプ場につきましては、平成23年度実績で1万6,864人となっており、両施設とも前年度実績及び目標数値を超えております。また、稼働率につきましても、前年度比で2.5ポイント増となっております。

(3)収支状況でございます。①収入実績で自主事業収入が1,017万円で、計画比で約370万円下回ったものの、収入全体では6,058万円で、計画比96.5%となっております。これは、東日本大震災の影響により、4月27日までの利用制限が行われたことによるものであり、おおむね計画どおりとなっております。

一方、支出面では、合計で5,934万円、計画比で95.3%となり、収支実績で約120万円の黒字を確保しております。

次のページをお願いいたします。

(4)指定管理者が行った処分件数は、千葉市ユース・ホステル設置管理条例第8条に基づく使用許可533件となっております。

(5)、(6)、市への不服申立てや情報公開の実績はございません。

3の利用者ニーズ・満足度の把握についてですが、(1)アンケートの調査内容につきまして、指定管理者が受付時に代表者等へアンケートを依頼し、かぎの返却時に回収する方法で207人の回答があり、質問項目は記載のとおりとなっております。調査結果といたしまして、利用満足度につきまして、満足、やや満足、合計で77%、施設の清掃状況について、清潔が70%、従業員の対応につきましては、よかった、まあまあよかったが91%と、おおむね良好に推移しております。また、アンケートによる意見の対応では、体重計や卓球の道具、シャワーの時間の割り振りなど、可能な限り対応を行っております。

(2)市への意見等については、特にございません。

次のページをお願いいたします。

4の指定管理者による自己評価でございます。施設運営に関しては、『利用者の増加、利用料金収入の増加が見られた。施設維持管理に関して、保守管理・清掃等を確実に実行するとともに、修繕・施設整備を実施した。経営管理に関して、PDCAマネジメントシステムに基づく自己評価、サービス向上に努めたほか、千葉市ユース・ホテル及び昭和の森キャンプ場管理運営懇談会を開催し、業務向上・利用促進に努めた。自主事業に関して、バーベキュー事業が計画を大幅に上回ったほか、里山学校や婚活などのイベントを開催した』と評しております。

5の市の評価につきましては、先ほどと同様、別紙資料のユの2番、A3判の指定管理者事業対照一覧表をお願いいたします。

初めに、1の市民の平等な利用確保、施設の適正な管理のうち、個人情報についてでございます。①個人情報の対応では、管理運営基準及び事業計画提案書に従い、みずから個人情報保護規程を策定しており、また、個人情報の取扱業務書の作成、職員への定期的な研修、就業規則の確認、いずれの項目も計画どおり実施されていることから、2と評価いたしました。

②行政手続では、マニュアルを作成し、実行されていることから、2と評価しております。情報公開規定及び文書管理規定の策定は、計画どおり策定されており、また、職員の周知についても市のモニタリング等により適正が認められたため、いずれも2と評価しております。

2の市民サービスの向上、①利用者サービスの向上の職員に対するOJTの実施については、事業計画どおり実施されていることから、2と評価しております。次に、アンケートの実施については、利用者からのアンケート結果も好評であり、利用者サービスの向上により利用者数の増に結びついていることから、3と評価いたしました。

②の利用者への支援については、予約受付の公平性、障害者、高齢者への支援、消防署で開催する救命講習の受講状況、緊急時の連絡体制のいずれの項目も計画どおり行われているので、2と評価いたしました。

次のページをお願いいたします。

3の施設の効用発揮、施設管理の能力について、①の利用促進方策でパンフレット・チラシでの周知の項目では、公共施設はもとより、事業内容によって近隣のスーパーな

どへも積極的に配布するなど、利用促進に努めたことを評価して、3と評価いたしました。その他ホームページの活用や、報道機関、地域支援の情報提供は計画どおりであり、2と評価いたしました。

②の自主事業の効果的な実施については、環境学習やユース・ホステル祭りなどの計画どおりのイベントのほか、婚活や音楽会などを積極的に実施するなど、効果的にイベントを実施したことから、3と評価させていただきました。

4の管理経費の節減につきましては、①支出見積の妥当性についておおむね見積もりどおりであり、妥当性があり、計画どおり執行されていることから、2と評価をいたしました。

②の収入見積の妥当性については、利用料金収入は計画どおりかの項目について、1カ月の利用制限を考慮した上で、計画を大きく上回る116.6%の実績となっていることから、3と評価いたしましたが、自主事業の項目について、計画について73.4%と及ばなかったので1と評価いたしました。

③の収支状況につきましては、計画と実績の比較でほぼ計画どおりであることから、2と評価してございます。

評価シートのほうにお戻りください。

以上の項目別の評価から、相対的に評価いたしまして、おおむね良好に管理運営がなされており、評価をAとさせていただいております。

以上でございます。

【部会長】 今の事務局の説明について、質問、意見を願います。

どうぞ。

【委員】 一番最初の(2)の利用状況の②の稼働率というのは、これは何の稼働率ですかね。宿泊、部屋、定員、何ですかね。

【事務局】 部屋の稼働率。

【委員】 宿泊ですかね。

【事務局】 はい。

【委員】 よろしいでしょうか。

【部会長】 どうぞ。

【委員】 いろいろ修繕をされているんですが、これはあれでしたっけ、委託事業が始まる以前に、これはあれですか、いろいろ修理するような期間があるんです。始まってから、去年の4月からこういうあれですか、いろいろ改修とか修理とか、建物ね、食堂の修理とかと書いてあるんですね。それは始まってから、その前にあるんです。委託管理を、去年の4月以降修繕しているんですね。その前のときに修繕するような期間というのはないんですね。

【事務局】 はい。

【委員】 だから、4月以降にやられている。

【事務局】 そうですね。継続的に運営されております。ユース・ホステルの場合は震災で利用できなかった期間というのは特になんていっていただいても、ただ、被災者を受け入れた関係がありまして、3月11日から4月二十何日までには一般の方の宿泊ができな

ったというところが利用制限という形になっておりますが、修繕関係については年度の中で。

【委員】 やられている。

【事務局】 はい。

【委員】 私どもは、あれですよ、修繕する前の状態を見させていただいたんですけれども、最近見られて、大分変られました、この状況、きれい度とか、何かこの、外のあれですよ、建物を改装して、屋根とか改装して、中を使えるようにしているというふうに書かれておりましたよね。事業計画か何かで。そういう食堂とか、行かれました。

【事務局】 すみません。4月以降は行っておるんですけれども、前年は行っていないものですから。

【委員】 比較ができない。

【事務局】 はい、すみません。

【委員】 そうですか。そういうことですか。

利用者が増えているのに、キャンプ場や何かの利用者が大幅に増えていますよね。前年度に比べて。達成率が、自主事業の売上高が減っているのは主にこの計画が相当高めだったからということでしたっけ。

【事務局】 はい。

【委員】 どのくらい、前年度比だったらあれですかね、前年度比率だと自主事業の売上高は相当伸びているでしょう。

【集客観光課長】 自主事業での収入の減につきましては、物販とバーベキュー等の。

【委員】 ここに書いてありますね。いや、実績比で行くと、これでも相当増えているんですよ。特に物販とかバーベキューは、前年度比では減少しているということではないというふうに。

【委員】 前年度の自主事業の決算額がわかればいいんですけれども。

【事務局】 すみません。前年度は690万円ほど。

【委員】 ですよ。

【事務局】 はい。

【委員】 ということは、1.7倍か1.8倍くらい伸びているわけですよ。

【事務局】 はい。

【委員】 これだけ利用者が増えているのに減るわけがないと思いますので、評価は前年度比較も大事だと思っておりますので、一言言わせていただきました。

【委員】 つまり、今のところは、あれですよ、対照一覧表でいうところの確認事項、後ろから3項目めの自主事業収入は計画どおりかという点で、計画に及ばなかったという意味で評価1だけでも、あれですよ、前年度実績からいけば十分伸びている。ただ、目標設定といいますか、計画額が相当高い数値、約2倍、決算実績の2倍を目標にしまったことで、73.4%の達成率ということで、評価が1にならざるを得なかったと、そういう理解でよろしいんですね。

【事務局】 はい。

【委員】 質問、ちょっと細かいことですが、同じく一覧表の確認事項の2ページ目の一番上に広報の関係で、評価3がパンフレット・チラシ、そのほかの2つは評価2、その2つというのはホームページ、それと、報道機関、地域誌等への情報提供というんですけれども、この3つの相乗効果というか、おかしいけれども、来客者が増えているわけですが、この3区分で評価を分けることになった、つまり、パンフレット・チラシが有効だったんだと、だから、評価が3で、ほかの2つの手段、ホームページとか地域誌は評価2にとどまるというか、この区別をつける根拠というのは何ですか。

【事務局】 そうですね。ホームページ等の活用については、計画とか、そこに載っている内容とほとんど遜色がなかったんですけれども、スーパーですとか、行政ではふだん考えないような特殊なところへのパンフレットの周知とか、そういったことが行われているということで評価を高くしている。

この3つに分けた理由につきましては、それぞれ広報内容というのが評価として分けられるのではないかとということで、分けております。

【委員】 分けられたのは結構で、それで、分けられた3つに従って評価がそれぞれなされた。3つのうちの1つが評価3をもらったというところの理由が何なのかということで、今の説明だと、スーパー等へパンフレットを置いたと。

【事務局】 はい。それから、学校も高等学校とか、通常の公共機関以外のところへの周知もかなりやられたということが。

【委員】 それによって利用者数に結びつくかどうかというところは配慮されていないというか、確認はされていないわけですか。

【事務局】 すみません。その辺はアンケート等での確に把握すべきことではあると思うんですけれども、ちょっと今のところ確認がとれておりません。

【委員】 たしかあれですよ、周辺に運動施設場がたくさんあるんですよ。それで、多分こういう話になっていると思うんですけれども、皆さん、委員は、あそこはそういう人たちに利用されれば利用が増えるんじゃないかと思っていると思うんですけれども、そういうデータというのをとられていたほうが、市としても、依頼すればもらえると思うんですけれども、ちゃんととられたほうがいいと思いますけれども、今後伸びていく要素の1つだと。

【事務局】 はい。

【委員】 くどいようなんですけれども、広報の媒体として3種類挙げて、そのうちのパンフレット・チラシを評価3になさったんだから、何か理由があるんじゃない。予定していないパンフレット・チラシを配っただけで3にしたのか、それとも、その媒体が集客に結びついたという裏づけがあつての評価なのか、そこらあたりはどうなんですか。

【事務局】 すみません。裏づけとしての確認はとってございません。アンケートの内容につきましては、今年度見直しを図って、そういったことがわかるようなアンケートにしていきたいとは考えております。

【委員】 基本的なことをお聞きしてもいいですか。

【部会長】 どうぞ。

【委員】 指定期間のところで、平成23年4月1日から26年3月31日は、この3

年間の後は、どういう予定でしたか。こっちが5年でこっちが3年なのは何ででしたか。

【事務局】 ユース・ホステルについては、利用率、今回利用者、宿泊、それから、自主事業も含めて、利用者が伸びているんですけども、これまでのトレンドはやはりどんどん利用者が低迷しているような状態でした。やはり行政改革の観点から、この施設を毎年度税金を4,000万円から使って、維持管理をして、引き継ぎしていくのがいいのか、それとも、ユース・ホステル事業そのもののあり方を見直して、ほかの用途に転用とか、そういったものを考える期間としてこの3年という形にしております。ポートタワーは引き続き継続を、もちろん施設そのものは継続をしていくという視点から5年という。基本的に、千葉市の指定管理の期間は5年というのが基本なんですが、そういった施設を改めて見直す必要があり、期間を3年という形にしたものでございます。

【委員】 それで、この1年の様子を見られて、皆さんとしてはどうだったのでしょうか。

【事務局】 そこをお答えするのはちょっとなかなか難しいんですけども、これはやはり全体の市の施設とか資産の有効活用という観点から、これは経済部だけではなく、全庁的にこれから検討をするような形になっておりますので、ただ、一般的にはやはりユース・ホステルというのはもうそろそろ社会的な使命が終わっているのかなとも言われているものでございます。ただ、現実に4,000人からのご利用があり、キャンプ場のほうはこれだけ利用があるという、そこをどのようにこれから全体の資産の有効活用と、それから、コストの削減といえますか、そういった視点からどのような方向に持っていくかというのは、ちょっと庁内に議論を深めまして、しかるべき時期に委員の皆様にもそこはお伝えをしたいなというふうには考えています。

【委員】 数字的に、例えば、経営というんじゃないかもしれないですけども、毎日マックスだったらどれぐらいみたいな、その中の今ここら辺だよということは把握してらっしゃるんですか。

【事務局】 単に経済性から考えれば、利用料金収入で施設の管理運営がすべて賄えるといいますか、そういった状態であれば当然そういう議論というのはそもそも出てこないという形になる。ただ、そこまでやはりこの今の施設、2,000円というご利用料金でそれだけの管理運営費がすべて賄える状況というのはちょっとなかなか厳しい。じゃあ、その不足分を自主事業で賄うにしても、何分あそこは公園の中の施設でございますので、いろいろそういった収益事業には制約もございますので、ちょっとなかなか厳しい。ただ、どういう状態になったら廃止という、まだそのメルクマール自体も今のところございません。ただ、狙上に上がっているというご理解をいただければ。

【委員】 見せていただくと、相当努力をしてらっしゃるんじゃないかと思います。いろいろな新しい展開というのを模索しながら、それに結果が出ているなど思うんです。

私はちょっとこの選定委員会の今日の位置づけが、もともとちょっとよくわかりません。それはなぜかという、ここに座っている私たち、評価委員ですか、私たちのこと、そう呼んでいる。それと、ここに居るのは市の方たちで、あとは、やった方の報告書だけが出てきている。現場の方たちがいらっしゃらない。ただ報告書を紙の上で見て、そ

して、ああだこうだと言って、一生懸命やった人たちのことを評価するというのは、何か違うんじゃないかなと思います。評価委員会というのはそういうものなんでしょうか。

【事務局】 一応、そうですね、選定評価委員会という形になっておりまして、委員さん方の役割といいますか、お願いする部分というのは、市が事業者から提出をいただいた事業報告書、そして、補足する部分は事業者をヒアリングして、聞き取りを行う、それを評価という形で整理をしたものを委員さんのほうにご報告をして、それに対してご意見をいただくという。ですから、委員がおっしゃるように、直接事業者からの意見も聞きたいよというご要望もございますけれども、今のところちょっとそういう形の整理にはなっておりませんので、ちょっとそこは。

【委員】 それでもっといい方向に行くんですかね。今のやり方で。何かもっとやり方があるというか、何だ、市役所はやはりお役所なんだというふうにすごく思いました。一緒に、知恵を出し合って、今の結果をもっとよくするにはどうするのかという委員会にしていくというのが、これからのやり方なんじゃないかなと思います。そこら辺も含め、ぜひ、形だけではなく、実質的なものにできるだけ近づくようなやり方をみんな考えていけたらと思います。

【事務局】 指定管理の選定委員会というのは、各市役所の組織の局ごとに、指定管理施設がある場合、そこでつくることになっているんですけれども、基本的には行政改革推進課が基本的な指定管理の選定評価委員会のひな形をつくっておりまして、どの施設も同じような委員会の運営になっております。今、委員からいただいた要望は、なかなかそれでこの委員会、我々の局のほうの委員会をそういう形の運営に持っていくということがちょっと難しいんでございますけれども、一応委員の意見として私のほうからこういうご意見がありましたということはお伝えをさせていただきます。

【委員】 一緒に意見交換をしながらよくしていくという、そういう機会が必要です。

【事務局】 それにつきましては、一応どこまでできているかはあれですけれども、千葉市ユース・ Hostel及び昭和の森キャンプ場の管理運営に対する懇談会というのをユースでは持っておりまして、私もその会議には参加をさせていただいております。実のなる議論が 100%されているかということはまだちょっとあると思うんですけれども、そういった懇談会規模で意見を聴取するということはユースの場合はやっております。

【委員】 懇談会があるんだなと思ったんですけれども、それは何回ぐらいやられたんですか。

【事務局】 実際昨年度の末に 1 回だけです。1 年たってみて、今年度へ向けた話をしたということで、これを継続してやっていくという形では塚原緑地では考えているようでございます。

【委員】 それじゃ足りないんじゃないですか。

【委員】 その関連でお尋ねしますけれども、この管理運営懇談会というのはメンバーはどういう方で構成されているんですか。

【事務局】 ユース・ Hostel協会の方と、あとは、先ほど局長から説明があったよ

うに、あそこは公園の敷地内なんで、公園緑地事務所の職員、私と、あとは、自治会関係の方も来ていた、あと、主催は塚原緑地で。

報告書の6ページのほうにございます。財団法人日本ユース協会の方、千葉県キャンプ協会の方、24自治会の方、昭和の森里山クラブ、それと、私ども観光と公園緑地事務所、あとは、協力員の方々が参加したという。

【委員】 この管理運営懇談会は事業計画の中で明確に何か出ていましたっけ、という、こういうのをやるという事業計画。

【事務局】 中にあったかと思います。8ページの参加と協働のところの下のほうに運営協議会的なもの。

【部会長】 はい。

市の評価いただいた中で、大きな感想といいますか、先ほど局長さんも触れられたように、この事業、特にユース・ホステルというものの先行きといいますか、トレンド、プラス、施設そのものが修繕、整備を要する状況、言葉をもっと平たく言えば、老朽化、の中で、言ってみれば様子見、どんどんどんどん尻すぼみというか、というのが予測されている中で、これだけ利用者数を増やされたという努力というか、ものすごいものがあるんじゃないかと私なりに感想を持っております。

それが1つは広報媒介の工夫であったり、あるいは、先ほどのバックアップといいですか、管理運営懇談会等、いろいろ工夫なされたんだと思いますけれども、ただ、結論の先どりというか、この先なんですけれども、となってくるとどうなるんだろうとか、頑張ればできるじゃないかということになると、あの老朽施設でユース・ホステルという名称を維持しつつやっていくことになっていいのかどうかということもこの先の大きな課題として、逆の結果が出てしまったというような一面もありますので、工夫が必要じゃないかなというふうに素直な感想を持っております。ほんとうに努力なさったのは大変敬服いたします。

ほかにご意見いかがでしょうか。

どうぞ。

【委員】 ちょっとわからないんですけども、平成23年度の事業計画書というのは我々は見えていないですね。これは審査が通った後につくったものですかね。23年度事業計画書というのは。

【事務局】 はい、そうです。

【委員】 そうですね。そういうことですね。ただ、事業計画書を見ると、利用者数の目標が、例えば、ユース・ホステルの宿泊者数が4,000人になっているんですけども、平成22年度の実績は5,641人のユース・ホステルの利用者があるんですね。そうすると、目標値を逆に下げているということになっている、実質的には、計画書の中では。実際には23年度は7,373人という人が来ていて、それはよかったんですけども、非常にいいことだったんですけども、ただ、この計画書の中で実際に下げられているというのは、今みたいに尻すぼみになるであろうという前提でもう下げちゃっているのか、あるいは、市のほうでもうこの数字で満足できていたのかという部分は。

【事務局】 多分そこで言っている4,000人というのが宿泊のところの実績である

4,050 名に対する目標、計画として 4,000 人というのが、その集会場を除いた。

【委員】 集会がやはり多いわけですね。そうすると。集会を除いて、その辺が、これは月別に出ているんですけれども、多分イベントはそんなに数をやってかなり努力されているというイメージには見えるんですけれども、数字的には 1,300 人ぐらい、トータルで、年間ですね。ですから、それほど数字に大きな貢献をしているということではない。にぎわいづくりとか、知名度向上とか、いろいろな意味では非常に、あるいは、来年度からそういう効果がさらに出てくるのかもしれないけれども、いいことだと思っているんですけれども、計画書は月別に利用者数が出ているのであれば、こちらの、何というんですかね、報告書のほうにも月別が出てくると、例えば、夏が増えたのか、あるいは、季節が広がってきたのかとか、そういったところの評価ができるので、基本的には前年度を基本としてやっているのか、実施計画書を基本にやっているのかということになるんですけれども、その辺もちょっとどちらかに統一するか、あるいは、こちらの比較は対前年でやっていますので、本来計画でやったほうがいいんじゃないかなと思う。計画書がもう承認されているわけですから、計画書でやるほうが、計画書の数値もあっていいのかもしれないですね。比較するときですね。

ちょっと一番知りたいのは、夏がさらに増えたのか、季節が広がってきたのか。広がってきたら、多分イベントとかいろいろ PR の仕方とかあったんじゃないかなと思うんですけれども、そういうようなところまで、まさに今後どうするかというところでは非常に大事なところじゃないかなと思うんですね。そういう評価をしたほうがいいんじゃないか。そこまで評価してあげたほうが、季節を伸ばしていったという評価を、通年化をだんだん進めていったとか、そういうような評価をしてあげたほうがやるほうもやる気が出てくるんじゃないかなというような気がするんで、ちょっとまとめ方、こっちが指示したわけじゃなくて、向こうがまとめてきたということなのかもしれないけれども、何かそういうようなのがわかるほうがいいんじゃないか。四季を通じて、5 月から 3 月までずっとイベントをやっていますんで、これは非常にいいこと、大変いいことだと思うんですけれども、今後につながることをだと思うんですけれども、数字でその辺がよくわかるような形がとれるとおもしろいかなと思います。

ちょっと参考の意見ですけれども。

【事務局】 宿泊者の傾向につきましては、4 月につきましては、先ほどご説明のとおり、震災の影響で使えなかったというのがかなり減になっております。月別で見ますと、特に夏が増えているとかということでもなくて。

【委員】 季節が広がってきているという感じですか。だんだん、全部平準化しないと思いますけれども。

【事務局】 そんなに特別何月が増えているということではなくて、全体的に持ち上がっていると、計画に対してですね。

【委員】 先ほどのポートタワーに比べると、集客のためのかなり積極的なイベントをやっているんじゃないか。ポートタワーはどちらかというと受身的なイベントが結構、中のものをよくしたりとかというのが多かったんですけれども、こちらの場合は積極的に呼び込もうという意識がかなり強いんじゃないかなと思うんですね。それは非常に

評価されるんじゃないかと思えますけれども。ポートタワーのを今言っていいかわかりませんが、向こうはやはり施設、何ですか、恋人の何とかとか、施設に頼ったりとか、どっちかというそういう今あるものに頼っちゃっているところがまだあるんじゃないかなと。施設の違いもありますけれども、何か逆にこっちがすごく目立つような気がします。そういう意味では、いいところですね。

【委員】 1つまた質問といいますか、お尋ねしたいんですけれども、事業報告書の7ページに地域別利用者数というのがあるんですけれども、先ほど震災のために一時使用したという利用者がいるということなんですけれども、これはカウントされていないということでしょうか。外国の利用者で、アジアが197人ですか、オセアニアが10人というんですけれども、これはこういう外国の方がユース・ホステルを利用するという形態も直に頼まれるのか、旅行会社的なものが仲介なさって利用なさっているのか、この外国の方の利用についてわかる範囲で教えていただければと思うんですが。

【事務局】 すみません。その辺はちょっと確認はとれてはいないんですけれども、日本ユース・ホステル協会ですとか、そういったところにはユースは登録してあるんで、そういったところからの情報とか、そういうので予約をとってくるのかなという、これはあくまでも私の想像なんですけれども、特に旅行会社と提携してユースが予約をとっているという話はないと思います。

【委員】 ちょっとよろしいですか。委員各位からいろいろ質問、集会室がこれだけいろいろなほかのところを見るとすごく前年度比でマイナスになっているところが多いんですけれども、すごく拡大しているのは、ほかの委員もおっしゃられたように、いろいろイベントを積極的にして集めているということなんだろうかなと想像しているんですけれども、これはあれですか、この報告書以外は正式としては何も把握されていないということなんですかね。要するに、ここには、事業計画のほうには来年度の予測、プランはこのところを書いてありませんよね。集会室の利用状況を何人に伸ばすとかと。そういうのは口頭では聞かれているんですか。

【事務局】 紙ベースでのものは特にこれ以上のものはないということです。集会室につきましては、基本的にこのユース・ホステルの目的、条例上、青少年の健全な旅行を奨励し、低廉な経費で規律正しく宿泊をさせ、また、交歓させるための施設ということになっているので、附属的な役割の施設ということで考えております。

【委員】 ほぼあれですか、この委託管理者の独自の事業で伸ばしたというふうに理解すればよろしいんですかね。

【事務局】 そうですね。

【事務局】 集会室を使える方というのは、この土気の周りの住宅の方が来られるので、先ほどチラシに力を入れているというのがありましたけれども、そういう足で稼いで、もう一生懸命チラシを送ったり張ったりすることで、近隣の方がここに来て、集会室で活動してもらうというパターンが結構多いんですね。

【委員】 ほかの施設を、皆さん、いろいろ見られているだろうと思うんで、比較されると、どれだけ違うか、どれだけすごいかということがよくおわかりになられるだろうなと思うんで、申し上げました。

【部会長】 では、どうですかね。委員の意見は以上ということで、意見を取りまとめていただけますでしょうか。じゃあ、前回同様しばしその間休憩といたします。

(休 憩)

【部会長】 用意ができたということで、再開いたします。事務局、どうぞお願いします。

【事務局】 それでは、事務局の案を申し上げます。

おおむね良好に管理運営されている。特に施設が老朽化している中で、積極的に集客のための事業を実施し、利用者が増加していることは評価する。

以上のような案でございます。

【部会長】 今の取りまとめといいますか、事務局のご意見について、ご意見があればお願いします。

ご意見がないようであれば、ただいまの千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場における選定評価委員会の意見として、今のご報告いただいたとおりでよろしいということでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【部会長】 じゃあ、皆さんのご賛成をいただいたということで、当委員会の意見としては取りまとめていただいたとおりとさせていただきます。

それでは、本日の議事は終了しましたので、事務局にお返しいたします。

【事務局】 ありがとうございます。今後の予定についてですが、本日の議事録につきまして、案ができ上がりましたら各委員さんにご確認いただき、その後部会長に承認いただいたものを確定の議事録とさせていただきたいと思います。

以上でございます。

【事務局】 それでは、以上をもちまして、平成 24 年度第 1 回経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。

— 了 —